三菱ガス化学株式会社

制作部署&お問い合わせ

水島工場　環境保安室
〒712-8525　岡山県倉敷市水島海岸通三丁目10番地
TEL：086-446-3826　FAX：086-446-3890

本印刷物は、再生紙を利用しています。

2023.9

2023

環境安全レポート

三菱ガス化学株式会社　水島工場

目 次 Environment and Safety Report 2023

目次 ……01

会社概要 ……02

工場長メッセージ ……03

環境への配慮 ……04

環境･安全基本方針 ……05

労働安全衛生 ……07

保安防災 ……08

環境保全 ……09

環境に関する支援活動 ……12

製品･物流安全 ……13

社会との対話 ……14

発行にあたって

この「環境安全レポート2023」は、三菱ガス化学㈱水島工場が取り組んでいるレスポンシブル・ケア（RC）活動（労働安全衛生、保安防災、環境保全、化学品・製品安全、物流安全）について広く社会に報告すること、及び自らの活動促進を目的として発行するものです。

このレポートの作成にあたっては、環境省の「環境報告ガイドライン」を参考にしています。

対象期間

RC活動は2022年4月1日～ 2023年3月31日までですが、一部2023年の活動を記載しています。

環境パフォーマンスデータは2022年4月1日～ 2023年3月31日のものです。

発　　行　　日：2023年9月
次回発行予定日：2024年9月

会社概要

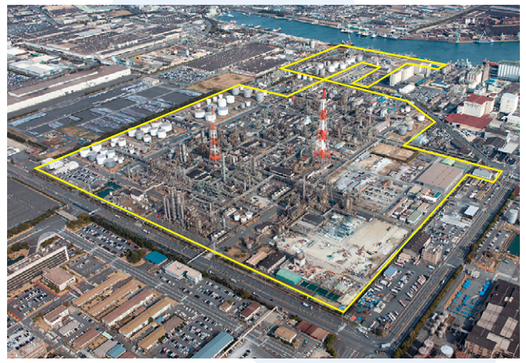
三菱ガス化学

社　　名　三菱ガス化学株式会社　（登記社名：三菱瓦斯化学株式会社）
本社所在地　〒100-8324　東京都千代田区丸の内二丁目5番2号 三菱ビル
創　　業　1918年（大正 7年） 1月15日
設　　立　1951年（昭和26年）4月21日
資 本 金　419.7億円 (2023年3月末現在)
事 業 所　**工　場**：新潟工場、水島工場、鹿島工場、四日市工場、山北工場
QOLイノベーションセンター白河
研究所：新潟研究所、平塚研究所、東京研究所

水島工場

水島工場は、自社開発による混合キシレンの分離・異性化をはじめとする様々な技術を駆使して、多様な製品を生み出しています。水島工場の製品は、直接目にすることはありませんが、いろいろな形に姿を変え、私たちの生活に深い関わりを持つ製品群に生まれ変わります。

工場所在地　〒712-8525　岡山県倉敷市水島海岸通三丁目10番地
敷地面積　55.7万㎡
従業員数　440名 (2023年4月1日現在)



技　術　受　賞	
キシレン分離技術	・大河内記念生産賞 ・化学技術賞 ・化学工学会賞（技術賞） ・石油学会賞 ・日化協技術賞 ・燃料協会賞
芳香族アルデヒド及び芳香族ポリカルボン酸製造技術	・大河内記念生産賞 ・化学技術賞 ・化学工学会賞（技術賞） ・石油学会賞 ・日化協技術賞

主　な　製　品	用　途
メタキシレンジアミン	硬化剤、ポリアミド樹脂
無水フタル酸	可塑剤、塗料
芳香族アルデヒド	香料、医薬
キシレン樹脂	粘着剤、樹脂改質剤
ネオペンチルグリコール	塗料、樹脂
無水トリメリット酸系可塑剤	塩化ビニル用可塑剤
高純度イソフタル酸	PET添加剤、ポリエステル樹脂、塗料

工場長メッセージ

私たちは目指します。
環境保全の推進と安全・安定操業を！！

私たち三菱ガス化学株式会社（MGC）は、「社会と分かち合える価値の創造」をグループミッションとしており、社会の信頼と共感を得るとともに、事業活動を通じ、企業価値の向上はもとより、SDGsの達成、ひいては持続可能な社会の実現に貢献することをサステナビリティ推進指針として事業活動を行っております。

水島工場におきましても、特に環境・安全の確保について常に自らの責任を認識し、社会からの信頼の向上に努め「事業活動の最優先は安全の確保」を安全理念に生産活動をしております。社員はもとより協力会社の方々と安全の名のもとに一致団結して、不断の取り組みを進めております。安全意識の標準化を行い、工場内のだれもが高いレベルで安全活動を行い、潜在するリスクを摘出し根絶もしくは低減し、保安防災システムの更なる改善を図り、事故・災害防止に努めています。

化学メーカーである当社は、「持続可能な開発」と「循環型社会の構築」の原則のもと、現在の事業活動が将来世代に及ぼす影響を常に考慮しています。高機能でオリジナリティに溢れた各種素材を提供し続け、社会から真に必要とされる企業としての存在感を高めていきたいと考えております。そのために、当工場も1995年よりRC活動を開始し、「環境保全」「労働安全衛生」「保安防災」を柱に、毎年具体的目標を掲げて工場全体で活動を推進しております。

2022年におけるRC活動は「環境保全：環境負荷の削減と持続可能な社会発展への貢献」「労働安全衛生：操業における健康と安全の確保」「保安防災：現場における保安と安心の確保」を基本に、各種リスクアセスメントの推進、新技術導入などの取り組みも積極的に取りいれて、より良い成果を求めて活動してまいりました。特に全国的にも増加傾向の墜落、転落事故に対する安全対策を、協力会社と共に徹底して実施し、危険個所の設備改善、教育など、設備と意識両面からのアプローチをして参りました。

また、2050年に温室効果ガスの排出量を実質ゼロに抑える「カーボンニュートラル」の達成に貢献し、GHGを削減するための省エネルギー活動や環境負荷低減の取り組みについても、具体的な削減計画を立て適切な対応を確実に進めております。

操業に関わる、高圧ガス認定完成・保安検査実施者及びボイラー・第一種圧力容器開放検査周期認定も継続維持し、各々、法規に則った運転、保守、検査により装置の安全・安定運転維持に日々努めるとともに、保安技術の向上に取り組んでいます。

本レポートでは、水島工場におけるRC活動を、写真・図・数値などで具体的に示し報告いたしております。地域の皆様がご一読され、私どもの活動に対してご理解いただければ幸いです。

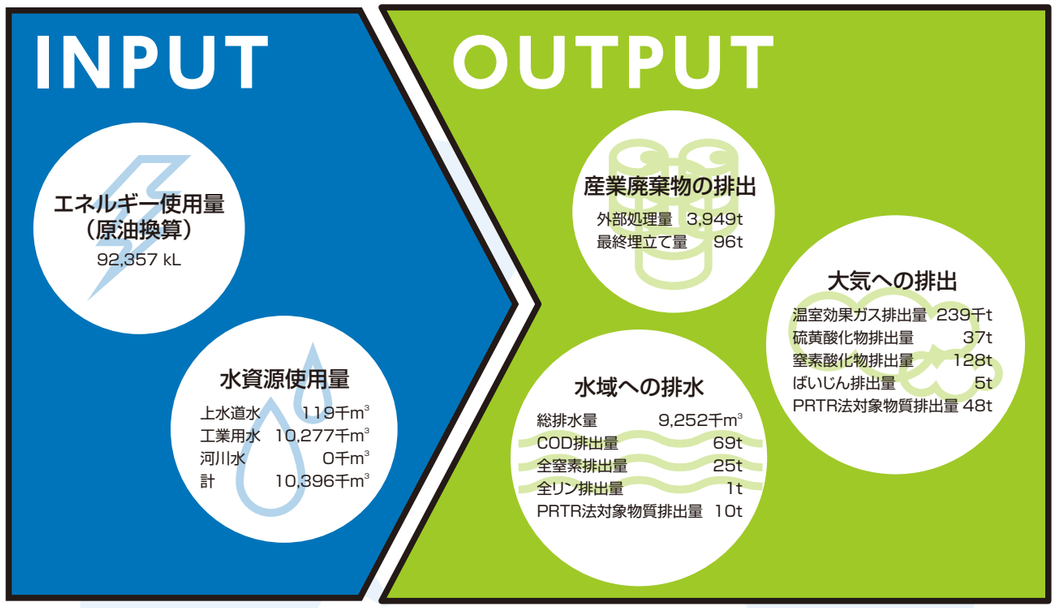
2023年9月

三菱ガス化学（株）水島工場
執行役員工場長
木山　浩

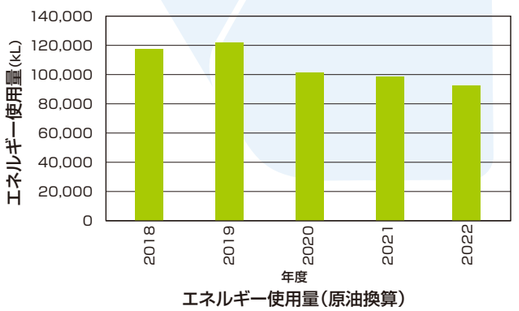
環境への配慮

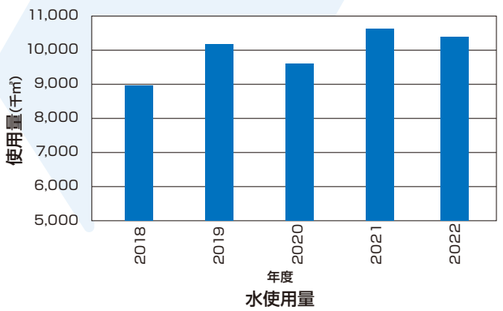
当工場は、原料資源の効率的利用及び環境負荷低減に向けて積極的に取り組んでいます。

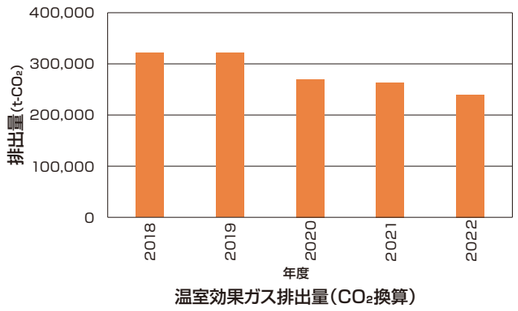
2022年度実績

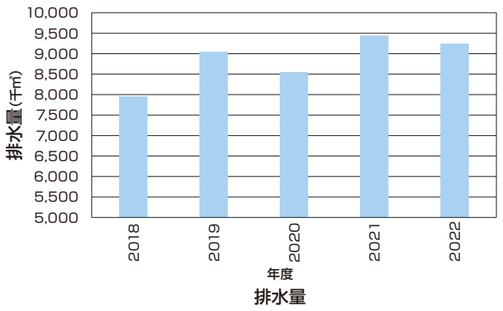


水島工場の主な環境負荷推移





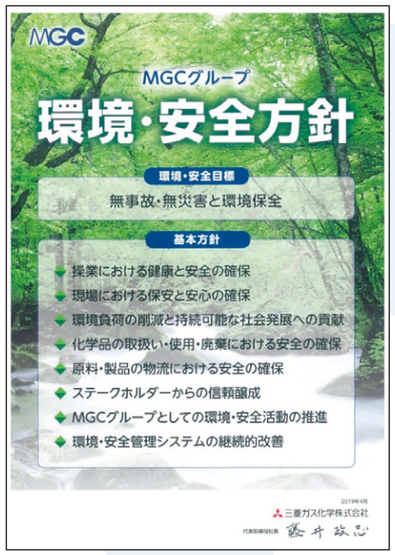




環境・安全基本方針

三菱ガス化学及び水島工場は、「事業活動の最優先は安全の確保」という安全理念のもと、社会への貢献並びに環境・安全の確保について自らの責任を認識し、持続可能な開発原則の下で事業活動を地球環境の保全に調和させるよう、いっそう信頼向上に努めております。環境・安全を確保するための方針を定め、自主活動としてレスポンシブル・ケア（RC）活動にも引き続き取り組んでまいります。

MGC環境・安全基本方針



MGCグループ 環境サステナビリティ宣言

三菱ガス化学グループは、気候変動の抑制や循環型社会の構築、生物多様性の保全など、地球規模での環境の健全性を意識した行動を通じて、将来にわたって持続可能な社会発展の実現に貢献します。

1.エネルギーや原材料、水などの資源に関して環境影響の少ない調達を心掛け、資源の効率的な使用を推進します。
2.温室効果ガスや環境汚染物質などによる環境負荷の削減対策を推進します。
3.リサイクルなどを通じて廃棄物を削減すると共に、廃棄物を適正に管理・処分します。
4.環境負荷の軽減や環境の回復・健全化に貢献する製品や技術の開発を促進・普及します。
5.事業所の所在地における環境関連法令や、国際的ルールを遵守します。
6.環境に関する取り組み情報を開示し、社会との良好なコミュニケーションを保持します。
7.教育を通じて環境問題への意識向上を図ります。

水島工場RC活動計画

MGC環境・安全基本方針の遵守を基本とし、本社で策定した2023年度全社RC活動計画を基に水島工場の活動計画を策定し、全員参加によるRC活動を推進しています。

1.労働安全衛生
自律的な安全活動により、ヒヤリ・ハット摘出、改善活動の継続、類似労働災害の再発防止、ヒューマンエラー撲滅に向けた取り組みの強化、協力会社安全活動の支援などを推進し、工場で働く人たちの健康と安全の確保に努める。

2.保安防災
スマートファクトリーの実現と先進的な技術の検討・導入などによる施設管理の充実、過去の異常現象・トラブルの風化防止、各種リスクアセスメント結果に基づくリスク低減活動、MGCグループの保安防災ガイドラインの活用、進行型災害への対応、保安教育や習得学習の充実により保安と安心の確保に努める。

3.環境保全
温室効果ガスの排出量削減、再生エネルギーの導入、廃棄物の発生抑制・有効利用と最終処分量削減、PRTR法及び日化協対象物質の排出量削減、水資源の効果的な運用と管理強化などを推進し、環境負荷の削減と持続可能な社会発展への貢献を果たす。

4.化学品・製品安全
化学品・製品の性状と取扱い方法を明確にし、取扱者の安全と健康の確保に努める。自主的な化学品管理の遂行と並行して国際的な管理の仕組み組みに対して、適切に対応する。

5.物流安全
物流トラブルの解析と水平展開の継続推進及びグループ物流会社との物流安全情報共有により、原料・製品の物流における安全の確保に努める。

6.社会との対話
環境安全レポートの継続発行、日本化学工業協会の活動やRC地域対話・地域行事などへの積極的な参加により、ステークホルダーとの信頼醸成に努める。

7.RC全般
社内事業所間の連携による、RC管理システム（環境・安全・保安管理システム）の継続的改善をおこなうと共にRC活動を通じて、社会に貢献できる人材の育成を図る。

水島工場は、CSR経営の下、環境・社会・企業統治の各要素に求められる責任を意識した上で、RC精神に則り、自主保安活動の展開を通じて危機管理の徹底・労働災害の撲滅・保安の維持と防災・環境保全・化学品製品安全・物流安全に努め、安全・安心な信頼関係の下に地域社会との共生を図る。

環境方針

1. 環境目標の達成と継続的改善
事業活動が環境に与える影響を的確に把握し、定量的な環境目標を設定し、その達成に努めるとともに定期的な見直しを図ることで、環境マネジメントシステム及び環境パフォーマンスを継続的に改善させる。

2. 法令の遵守と環境保全・保護活動
水島工場が事業活動を行う際に適用される環境関連の法規制・協定を遵守し、物流を含めた環境汚染の予防及び気候変動の抑制や循環型社会の構築、生物多様性の保全に努める。

3. 環境負荷の削減
事業活動においてMGCグループ環境サステナビリティ宣言に掲げる重点項目に沿って、環境影響の少ない資源の調達、資源の効率的な使用に努めると共に温室効果ガスや環境汚染物質などの削減を図る。

4. 環境への意識向上
環境教育を通じて全ての就業者にSDGs（持続可能な開発目標）達成に貢献する環境管理活動を認識させ、環境に対する意識向上を図る。

5. 環境情報開示
環境安全レポートにより環境に関する取り組み情報を開示し、地域社会との良好なコミュニケーションを保持する。

安全衛生方針

1. 労働安全衛生法などの法令を遵守し、本社制定の総合安全管理規程・工場の基本ルールであるMF総合安全管理規程に従い、秩序ある職場を確保する。
2. 三菱ガス化学株式会社災害防止協議会等と連携し、水島工場で働く全ての就業者が、健康で安全・安心に働けるよう、労働災害の撲滅と身体の健康、こころの健康増進に向けた取組みや働き方改革を行い、快適な職場環境を確保する。
3. マルチリスクアセスメント、化学物質のリスクアセスメントにより抽出した危険源の排除、潜在リスクの最小化を図り、働く者の安全・健康を確保する。
4. 「安全文化」に根ざした、自律的な安全衛生活動の推進をめざし、基本となるヒヤリ・ハット摘出と解析及び改善活動、KY活動、指差し呼称、5S活動などのツールを積極的に活用し、事故・災害の未然防止に努める。
5. 全ての就業者は、安全管理の視点を養うため安全衛生に係る教育・研修・訓練を積極的に受け、自己研鑽に努める。

保安防災方針

1. 各種リスクアセスメントや変更管理、日常点検などにより、保安に影響を与える危険源の特定とリスク低減活動を推進し、事故・災害の発生を未然に防止する。
2. 各種監査を有効かつ効果的に実施することにより、保安管理システムの継続的改善を図る。
3. 全ての就業者が特定要求事項を遵守し、設備管理・運転管理・保安管理の強化を図る。
4. 環境・安全基本方針を踏まえた保安管理方針と、全社ＲＣ活動計画並びに前年の活動結果を基に保安管理目標を設定して、自主保安のスパイラルアップを図る。
5. 関係行政ならびに水島コンビナート地区保安防災協議会及び関係会社と協力し、物流も含めた地域防災とコンビナート事故撲滅に努める。
6. 「安全基盤の強化」「安全文化の醸成」などで積み上げてきた知見と最新の情報を活用し、保安教育・訓練及び自己研鑽を図り、保安管理レベルの向上を図る。

労働安全衛生

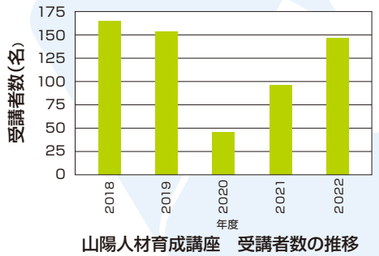
工場長巡視

工場長自らが現場に赴き、安全管理・安全対策・安全活動の実施状況を確認しています。

労働安全衛生教育

1．山陽人材育成講座の活用

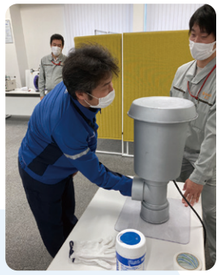
労働災害・異常現象の発生防止の取り組みの一環として、模擬体験やグループワークを通じて安全意識の向上を図ることを目的に毎年多数の社員が講座を受講しています。2021年はコロナの影響から中断されていた講座が再開され参加者、受講者数もコロナ前の水準に近づいてきました。



山陽人材育成講座　受講者数の推移

2．安全体感教育

社外より講師を招き、リアル体感+ＶＲ体感のハイブリッド形式で安全教育を行いました。危険を疑似体験することで災害の怖さを身近な事として感じ、危険に対する感受性を高めることが出来ました。安全を確保することの重要性を改めて認識しました。



協力会社への支援

工場には、多種多様な設備があり、保守・整備は欠かせません。このメンテナンスを行うため工場内には工事を担当する協力会社の皆さんがおります。

工場の安全を守るのは、事業者の責任であり、最優先事項と考えています。協力会社の皆さんと協議会を組織し、定期的な会議を通じて安全情報の共有化や優秀な協力会社の表彰、外部講師を招いての講演会を開催し、災害の防止に繋げています。

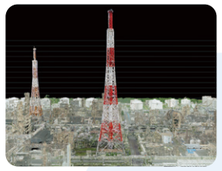
健康の保持・増進に関する取り組み

工場で働く全ての社員が心身ともに健康で元気に働くことを目的として、社員の健康増進に取り組んでいます。健康で元気に働くことができる身体づくりという観点から、ロコモティブシンドロームに着目し、骨や筋肉、関節などの運動器の状態を確認しています。

保安防災

高圧ガス認定事業所

当工場は、高圧ガス保安法における「認定事業所」として、2年連続運転や自らが完成・保安検査を行うために、日常的に様々な改善を推進しています。また、最新技術を用いた運転管理・設備管理にも力を入れ、高いレベルの保安管理技術の向上に向け研鑽を積んでいます。その取り組みが評価され、2019年9月、四回目となる認定（完成・保安）検査実施者に認定されました。次回更新（5年後）までに行われる中間立入検査は2023年3月に行われ認定を継続しております。2024年の認定更新に向けてIoTやAIなどDX技術を駆使し今後も更なる自主保安の高度化を目指し、水島コンビナートのトップランナーに追随して行く覚悟です。



工場総合防災訓練

災害はいつ発生するかわかりません。その備えとして、工場全体で災害を早期に鎮圧するための訓練を毎年2回実施しています。そのうち1回は公設消防も訓練に加わり一体的な訓練を行い、連携を深めています。

公設消防隊との一斉放水

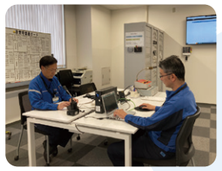
ボイラー等の開放検査周期認定制度

ボイラー及び第一種圧力容器の性能検査において運転や保守に関する管理体制が確立され、定められた基準に基づく高度な管理や自主検査が確実に行われているボイラー等で所轄労働基準監督署長が認めたものについては、開放検査周期認定を受けることが出来ます。

これにより開放検査周期を伸ばすことができ、当工場は2年認定及び4年認定を取得しています。5年毎の認定更新審査も継続して合格しています。また、認定要件を満たした機器の認定追加も継続して行っています。

非常用発電機新設

南海トラフ地震などの大規模地震では、電力会社からの電力供給は遮断される恐れがあります。当工場では自家発電による電力も併用していますが、この両系統が遮断されると想定し、独立した非常用発電機を設置しています。防災本部と現場との連携訓練を行い、工場内の装置を安全に停止させるために必要な電力を確保し、緊急時にも対応できるように備えています。



全社連携の保安力強化

2008年から活動している全社安全活動はAZ活動、Bridge活動として取り組んできました。そして2020年から新たにLINK活動を立ち上げ、これまでの活動を引き継いでいきます。製造部門、工務部門、研究部門、物流・荷役部門が各事業所の横の繋がりを意識し、切磋琢磨することにより、現場の自主保安力を高い水準に引き上げ、安全安定操業に向けて取り組んでいます。

環境保全 省エネルギー・GHG(温室効果ガス)排出削減/産業廃棄物の排出抑制と削減/化学物質排出削減

省エネルギー・GHG排出削減

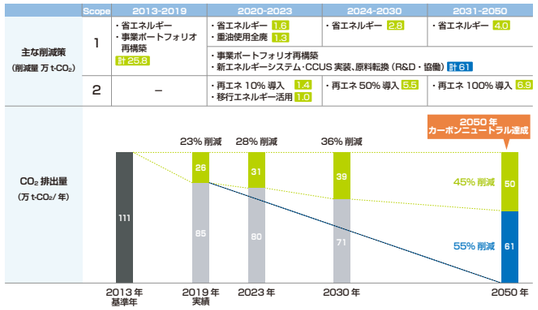
当工場では当社のミッション「社会と分かち合える価値の創造」の一環として地球規模での気候変動問題の解決に貢献すべく、「環境保全は、化学会社の使命」のもと、SDGsの取り組みにも合致する環境負荷低減、省エネルギー、地球温暖化防止に努めています。

工場の活動は、化学プラントの技術的な改善が中心であり、継続的なエネルギー使用量の削減を意識して取り組んでいます。2022年度もGHG関連テーマについて十数件完遂しました。

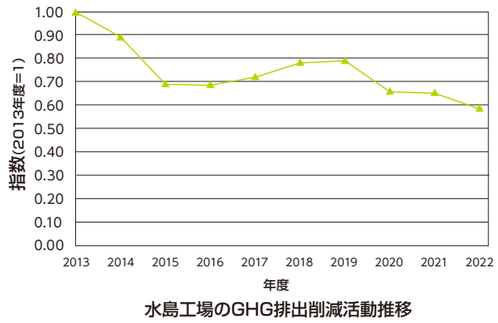
その達成度を表す当工場の省エネルギー活動の推移を図に示します。指標として2021年度より二酸化炭素排出量を用いており、その達成度は2013年度を基準としております。

GHG 排出削減長期目標

2023 年	2030 年	2050 年
2013 年度比 28% 削減	2013 年度比 36% 削減	カーボンニュートラル達成



MGCのGHG排出削減長期目標



水島工場のGHG排出削減活動推移

2022年度においても、引き続きGHG排出量の削減が達成できています。工場装置に増減があるものの、絶え間ない省エネルギー活動を積極的に取り組むことで、着実に成果が積み上がってきています。その具体例としては、①製造設備から出る排水処理方法の最適化に伴うエネルギー削減、②蒸留塔運転最適化による使用蒸気量削減、③工場使用蒸気バランスの最適化に伴う蒸気ロス量の削減などが挙げられます。中でも、①は二酸化炭素排出量の削減がおよそ900t-CO_2/年と大きな成果を上げています。省エネルギー活動の結果として工場全体では約2,400t-CO_2/年の削減に繋がりました。この他にも、2022年度から再エネルギー電力を一部導入していますが、継続的に利用ができるように交渉を続けています。

2050年の脱炭素社会に向け、今後もこれまで以上にエネルギー効率の向上やエネルギー転換に向けた取り組みを続け、環境負荷低減、省エネルギー及び環境保全に貢献していきます。

運転最適化で蒸気使用量削減に繋がった蒸留塔

産業廃棄物の排出抑制と削減

3R[注1] 活動

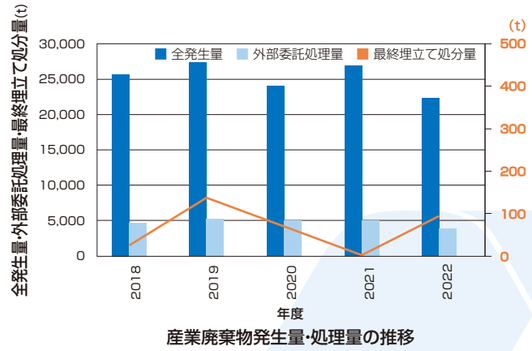
当工場では、設備の新増設などに伴う産業廃棄物の発生を抑制・削減するために、技術・設備的改善を行っています。また、発生した産業廃棄物のうち、廃油は燃料として焼却施設で再利用し、廃酸は中和剤など、金属くずはスクラップ等の再資源化として一部を有価売却しています。

産業廃棄物の外部委託処理状況などの現地確認

当工場から発生する産業廃棄物及び特別管理産業廃棄物[注2]は、廃油・汚泥・廃酸・木屑・廃プラスチック・燃えがら・ばいじんなどがあります。産業廃棄物は、契約締結している産業廃棄物収集運搬・処分会社に処理を委託しています。

当工場の2022年度の産業廃棄物の全発生量は22,170tでした。そのうち、外部委託処理量は3,949tでした。最終埋立て処分量は96tであり、これは焼却・溶融などの中間処理後の残渣物です。

また、県内外の委託処理会社を訪問し、廃棄物の適正な処理状況や管理体制等を確認しています。



産業廃棄物発生量・処理量の推移

ゼロエミッション

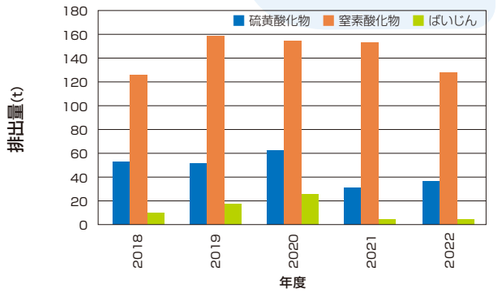
ゼロエミッション（最終埋立て処分量をゼロに近づける）は、MGC では最終埋立て処分量を廃棄物全発生量の0.3%以下に設定し、削減に取り組んでいます。これからも最終埋立て処分量の削減、さらなる廃棄物発生量の抑制、有効利用による外部委託処理量の削減に取り組んでいきます。

化学物質排出削減

大気汚染防止

当工場から排出される大気汚染物質について、大気汚染防止法などに定める規制基準を遵守することで、大気汚染防止及び排出量削減に努めています。

ボイラーなどの燃焼時に発生するばい煙などについては、連続監視測定設備により、窒素酸化物、硫黄酸化物、排ガス量が常時、岡山県環境保健センターへ測定値として送られています。また、オキシダント情報発令時はさらなる排出削減を図っています。

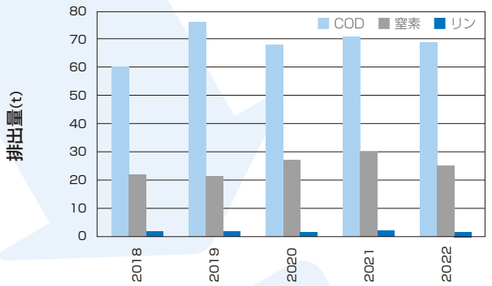


硫黄酸化物・窒素酸化物・ばいじん排出量の推移

水質汚濁防止

当工場の排水について、水質汚濁防止法などに定める規制基準を遵守するために、水質管理を適切に実行しています。

各施設の排水口には、pH計、TOD計などの測定機器を設置し、異常の早期発見に努めています。また、活性汚泥処理設備では集合した工場排水を処理し、COD負荷量・全窒素・全リンを24時間連続で分析しています。工場外排水出口である水島港への放流水も、毎日COD値などの分析を行っています。



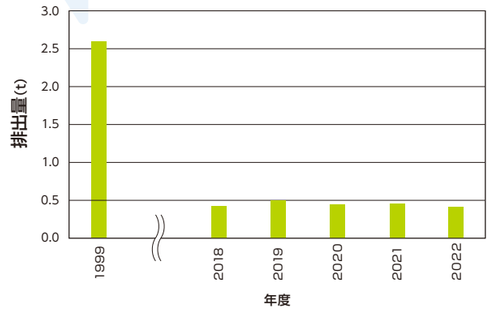
COD・窒素・リン排出量の推移

PRTR届出対象化学物質の排出量削減

当工場では毎年対象物質の排出量を把握するとともに、削減に向けた取り組みを行っています。当工場で最も排出量の多い物質はキシレンであり、その多くはタンクからとなっています。排出ガス回収装置の更新などの削減を進めた結果、大気へのキシレン排出量は、2005年度の85tに対し2022年度は28tでした。今後も設備機能の維持に努めていきます。

有害大気汚染物質（ベンゼン）排出量削減

当工場では、水島コンビナート地区周辺の大気中ベンゼン濃度低減に向け、コンビナートのベンゼン取り扱い各社とともに、環境基準値達成のために監視及び削減対策に取り組んでいます



ベンゼン排出量(大気及び水質)の推移

注1：Reduce（発生削減）・Reuse（再使用）・Recycle（再資源化）の3つの取り組み。

注2：爆発性・毒性・感染性・その他の人の健康または生活環境にかかわる被害を生ずるおそれがある性状を有する廃棄物。

環境保全 環境マネジメントシステム

環境保安室長のメッセージ

倉敷は瀬戸内の穏やかな気候に恵まれた立地であり、近隣には倉敷美観地区などの観光地があり、多くの観光客を受け入れています。倉敷の南部に位置するここ水島は多数の企業が石油化学品等を製造する国内でも有数のコンビナートです。ここ数年、全国のコンビナート地区の事故件数は僅かながら上昇傾向にあり水島地区についても同様の傾向がみられており憂慮すべき状態です。当工場では昨年は2件のコンビナート事故を発生しており散発する事故や労働災害の撲滅が大きな課題であり再発防止に取り組んでいます。

当工場はRCマネジメントシステムのもと、各RCコードについてPDCAによる目標管理、継続的改善により、事故や労働災害の撲滅は言うまでも無く、環境保全に関しても推進を図っています。昨今、気候変動を引き起こす地球温暖化が進む中、カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現は社会が直面する重要課題です。当工場も行政、地域コンビナート各社と連携し温室効果ガス排出量の削減、カーボンニュートラルの達成に向けて環境保全と資源の有効活用を推し進めています。

MGCグループのCSR方針はグループビジョンである「社会と分かち合える価値の創造」のもと、サステナブルな社会の発展と調和に貢献することです。今後もMGC水島工場は環境保全を推進すると共に、保安防災、安全衛生活動の強化を図り、地域社会との安全・安心な信頼関係を築き共生を図っていきます。

環境保安室長
藤田 直樹

ISO14001 認証

当工場は、2000年に認証取得後、環境マネジメントシステムの効果的な運用により、事業活動に伴う環境に対する影響の軽減に向けて、環境対策の継続的改善を行っています。今後も環境・保安防災・安全衛生を基盤とし、社会に貢献していきます。

ISO14001 認証書

環境保全目標の設定・実行による継続的改善

MGCグループ環境サステナビリティ宣言に基づき、環境の健全性を意識し、環境負荷低減・改善活動を効率的に取り組んでいます。工場全体で、省エネルギー・大気・排水・廃棄物・温室効果ガス・水資源の管理・生物多様性の保護などの環境管理に関する年間の活動目標を策定し、計画的に活動を行っています。

内部監査

当工場の保安管理システム[注3]が、関連法規制・保安管理方針・諸規定類に準拠し、効率的かつ有効に運用されているかどうかを確認・検証し、評価・助言するために内部監査を定期的に実施しています。

内部監査の種類

ＲＣ内部監査	高圧ガス認定内部監査
環境内部監査(ISO14001)	協力会社へのＲＣ監査
本社によるＲＣ監査	本社による高圧ガス認定事業所監査

本社によるRC監査

次年度への改善活動

当工場の RC 活動・監査結果に対して、工場長が妥当性・有効性の評価を行い、次年度の活動に向けて改善活動を行っています。

注3：環境・保安防災・安全衛生管理活動を維持・改善するシステム

品質保証室の環境に関する支援活動

環境関連に関する支援

品質保証室では、工場内で製造出荷される製品に関する品質検査・保証を主業務とする一方、生産に伴い発生する環境影響についても分析面で支援しています。その分析結果を基に工場から排出される物質の法規制値、届け出値の遵法性を確認・監視しています。

品質保証室長
林　正義

環境関連分析の内容一覧

① 排水：製造課の排水を分析することで、法規制に関する物質の監視、及び排水負荷量削減に寄与。

② 大気：特定施設の排出ガス、有害大気汚染物質（ベンゼン）等を測定。法規制値、届け出値等の遵法性を確認・監視。

③ 産業廃棄物：製造課の工程分析及び廃棄物処理法に係る分析をすることで廃棄物の減量化に寄与。

④ 土壌：工場内の工事・掘削等で発生する残土の土壌試験を行い、有害物質の有無を確認。

⑤ 省エネ：各部門の省エネ対策における分析面での支援。

⑥ その他：PRTR報告用分析、公害健康法分析の実施。

年1回測定している敷地境界線の
悪臭物質サンプリング風景

ISO9001 認証

1995 年 5 月 15 日に ISO9001 品質マネジメントシステムの認証を取得しています。社会のニーズに応え、有用で安全性及び信頼性の高い優れた製品・サービスを提供し、顧客･消費者の満足と信頼を獲得する為、ISO9001 の基本理念に則り日々の改善・改良によるコストの最適化と安定・安全な製品の提供に努めております。

ISO9001 認証書　ISO9001 付属書

顧客ニーズによる環境関連物質調査

当工場の製品を購入して頂いている顧客から、製品に含まれる環境関連物質の調査や測定依頼が多く寄せられます。以下に例示した内容の調査依頼を毎月数十件程受けます。製品中の定期的な有害物質調査も実施して品質の維持、問い合わせに対応しつつ、新たな懸念物質についても国際的な化学物質管理の動向を注視しながらその対応に備えています。

環境関連物質調査内容一覧

- 環境負荷物質調査
- 原材料に関する調査
- 化学物質含有調査
- SVHC※含有調査
- RoHS指定物質含有調査
- 特定化学物質含有調査
- グリーン調達対策物質に関する調査と非含有証明

※人の健康及び環境に対して非常に高い懸念を抱かせる物質。

製品・物流安全

製品の安全輸送

原料物流ＧＬ
神田 京子

化学製品を輸送する者の責務として、製品の性状・安全性・取り扱い方法を明確にし、それらを扱う全ての人の健康と安全、及び環境を守る様々な活動を展開しています。

当工場の製品は、適正な荷姿でお客様にお届けできるよう、充填・包装作業、運搬に係る全ての工程において、安全管理及び環境対策を行うことで、物流トラブルの削減に努めています。

物流品質向上への取り組み

路線便や小口運送の監査を随時実施しています。化学運輸が業務を委託している運送会社へ私たちも同行し、直接確認することで物流トラブル削減と物流品質向上に取組んでいます。

路線便監査の様子

現場プラットホーム確認

物流事故対応・防災訓練

輸送中の事故は、私たちが現場へ速やかに駆け付け、安全に対応、処理を行う事が求められます。関係各所への的確な情報提供も合わせて必要なため、定期的に訓練を行います。

また、水島工場で防災体制が発動されると、業務委託をしている化学運輸とともに防災活動を行います。日頃から合同で防災や安全活動も連携して行う事で有事に備えています。

関係各所への連絡訓練

現場への緊急資材輸送訓練

自衛指揮車搭載資機材の確認

社会との対話

水島港クリーン大作戦

水島港周辺の清掃を行いました。社員とその家族が参加し、桟橋周辺等の清掃を行い、港湾地区の美化に取り組みました。

学生向け工場見学会実施

地域の高校生向けの工場見学を実施しました。
バスで工場内を見学し、製品・装置についての説明を行いました。

高校生向け メタノール提供

倉敷市内の工業高校生にプラント実習用のメタノールを提供しました。
参加した高校生は、メタノールの充填作業の見学、ラベル貼り体験を行いました。

交通安全立哨

地域で実施している交通安全立哨へ参加しました。
街頭にて、近隣住民の方々へ交通安全への取り組みを呼びかけました。